

# 本棚 ぶらり

## 本で読むシェイクスピアの世界

シェイクスピアは、「ハムレット」「マクベス」「オセロー」「リア王」の四大悲劇をはじめ「ヘンリー6世」「リチャード3世」「ジョン王」などの歴史劇、「ヴェニスの商人」「夏の夜の夢」「十二夜」などの喜劇のほか、詩篇・ソネット集など、人間世界のさまざまな悲劇・喜劇を描き、多くの名作を残しました。

彼の作品は、国境を超えて多くの人に親しまれており、世界で最も有名な物語を作り出した人物の一人と言えるのではないのでしょうか。

今年は没後400年にあたります。記念すべきこの年に、さあ、シェイクスピアの世界へ！

### ◆『シェイクスピア大図鑑』

スタンリー・ウェルズ／ほか著 かわいしやういちろう 河合祥一郎

／監訳 三省堂 2016年

没後400年という記念の年に贈る、オールカラーの大図鑑。シェイクスピアの生涯、戯曲40作品と詩作のほか、彼の作品を題材にして制作された世界中の映画や舞台なども豊富に掲載しています。

例えば、ハムレットの「生きるべきか…」やロミオとジュリエットの「…あなたはどのようにロミオなの」といったセリフ。作品を読んだことがなくとも一度は、耳にしたことがあるのではないのでしょうか。本書では、河合祥一郎による翻訳に多くの図解や写真を添えて、劇中に登場した名セリフの数々を紹介しています。

また、蜷川幸雄が演出した2012年、ロンドンのバービカン劇場での舞台『シンベリン』も写真入りで紹介されています。



『シェイクスピアストーリーズ』

シェイクスピア/原作  
BL出版 2015年

### ◆『シェイクスピアストーリーズ』

シェイクスピア／原作 アンドリュー・マ  
シューズ／文 アンジェラ・バレット／絵 しまりょうこ 島  
式子・島玲子／訳 BL出版 2015年

アンジェラ・バレットの繊細で美しい挿絵に酔いしれながら、シェイクスピアの戯曲8作品を童話風の文章で読んでみましょう。

本書に掲載されている『十二夜』は、若い男女の勘違いや騙し合いから巻き起こる恋の三角関係のお話。そして、事件がおこります…。

果たして、それぞれの恋の行方はどうなるのでしょうか。悲哀と滑稽、理知と不条理、詩情と皮肉、すべてが混ざり合ったお祭り騒ぎの喜劇をお楽しみください。

### ◆『シェイクスピアの正体』

河合祥一郎／著 新潮文庫 2016年

数多くの作品をこの世に生んだシェイクスピアには、複数の「別人説」が存在します。

2005年10月には、アメリカの雑誌「タイム」やイギリスの新聞「インディペンデント」が、同年の新刊『真実は暴かれるー本当のシェイクスピアの正体を明かす』の「外交官、サーヘンリー・ネヴィルこそシェイクスピアの正体である」という新説を報じ、騒ぎになりました。

ネヴィル以外にも浮かび上がった6人のシェイクスピア候補たち。著者は、それぞれの別人説について、彼らが生きた時代背景や文学史を元に検証を行いました。シェイクスピアの正体・真実とは一体…。